

令和3年8月10日

各位

トモニホールディングスグループの令和4年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和4年3月期第1四半期（令和3年4月1日～令和3年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和4年3月期第1四半期（令和3年4月1日～令和3年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、役務取引等収益及び国債等債券償還益が増加したものの、国債等債券売却益及び株式等売却益が減少したこと等により、前年同期比1,084百万円減少して17,278百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損、株式等売却損、株式等償却及び与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比3,543百万円減少して11,731百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比2,459百万円増加して5,547百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比2,503百万円増加して4,489百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比1,456億円増加して4兆5,535億円、純資産は前年度末比55億円増加して2,486億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,280億円増加して4兆242億円と初めて4兆円を超え、貸出金残高は、前年度末比405億円増加して3兆1,242億円、有価証券残高は、前年度末比22億円増加して7,016億円となりました。なお、銀行子会社単体合算の大阪地区における貸出金残高は、前年度末比216億円増加して1兆30億円となり、第4次経営計画において掲げております目標（1兆円以上）を達成しております。

		令和4年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	17,278百万円	△1,084百万円
	経常費用	11,731百万円	△3,543百万円
	経常利益	5,547百万円	2,459百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	4,489百万円	2,503百万円
		令和4年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	45,535億円	1,456億円
	純資産	2,486億円	55億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	40,242億円	1,280億円
	貸出金	31,242億円	405億円
	有価証券	7,016億円	22億円
	自己資本比率（国内基準）	8.86%	0.04%

(2) 令和4年3月期（令和3年4月1日～令和4年3月31日）連結業績予想

令和3年5月14日に公表しております令和4年3月期第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期（中間）純利益）につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和4年3月期第1四半期(令和3年4月1日~令和3年6月30日)単体業績

当第1四半期の損益状況は、経常収益は、役務取引等収益が増加したことや、貸倒引当金戻入益を計上したこと等により、前年同期比91百万円増加して8,588百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益や役務取引等利益が増加したこと等により、前年同期比646百万円増加して7,441百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比583百万円増加して2,849百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比769百万円増加して3,217百万円となり、四半期純利益は、前年同期比853百万円増加して2,510百万円となりました。

当第1四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比909億円増加して2兆2,400億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比934億円増加して2兆3,598億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比187億円増加して1兆7,611億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は8.09%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行いました結果、前年度末比27百万円減少して24,770百万円、総与信に占める割合は1.38%となりました。

		令和4年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	8,588百万円	91百万円
	コア業務粗利益	7,441百万円	646百万円
	コア業務純益	2,849百万円	583百万円
	経常利益	3,217百万円	769百万円
	四半期純利益	2,510百万円	853百万円
	本業利益	1,553百万円	402百万円
	与信関連費用	△222百万円	△600百万円
		令和4年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	25,183億円	968億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	22,400億円	909億円
	総預り資産	23,598億円	934億円
	貸出金	17,611億円	187億円
	有価証券	3,805億円	107億円
	自己資本比率(国内基準)	8.09%	0.07%
不良債権	金融再生法開示債権額	24,770百万円	△27百万円
	総与信に占める割合	1.38%	△0.02%

3. 香川銀行

(1) 令和4年3月期第1四半期(令和3年4月1日～令和3年6月30日)単体業績

当第1四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び役員取引等収益が増加したものの、有価証券利息配当金及び株式等売却益が減少したこと等により、前年同期比1,073百万円減少して7,097百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したものの、役員取引等利益が増加したこと等により、前年同期比33百万円増加して5,725百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が増加したこと等により、前年同期比55百万円減少して2,017百万円となりました。

経常利益は、債券関係損益が増加したこと等により、前年同期比889百万円増加して2,293百万円となり、四半期純利益は、前年同期比820百万円増加して1,952百万円となりました。

当第1四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比366億円増加して1兆7,887億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比391億円増加して1兆9,284億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比218億円増加して1兆3,721億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は9.65%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取り組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行いましたが、前年度末比134百万円増加して28,427百万円、総与信に占める割合は2.02%となりました。

		令和4年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	7,097百万円	△1,073百万円
	コア業務粗利益	5,725百万円	33百万円
	コア業務純益	2,017百万円	△55百万円
	経常利益	2,293百万円	889百万円
	四半期純利益	1,952百万円	820百万円
	本業利益	1,086百万円	312百万円
	与信関連費用	64百万円	△351百万円
		令和4年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	20,309億円	486億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	17,887億円	366億円
	総預り資産	19,284億円	391億円
	貸出金	13,721億円	218億円
	有価証券	3,188億円	△85億円
	自己資本比率(国内基準)	9.65%	0.02%
不良債権	金融再生法開示債権額	28,427百万円	134百万円
	総与信に占める割合	2.02%	△0.03%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部	TEL : 087-812-0102
株式会社徳島大正銀行 企画部	TEL : 088-656-1118
株式会社香川銀行 総合企画部	TEL : 087-812-5132